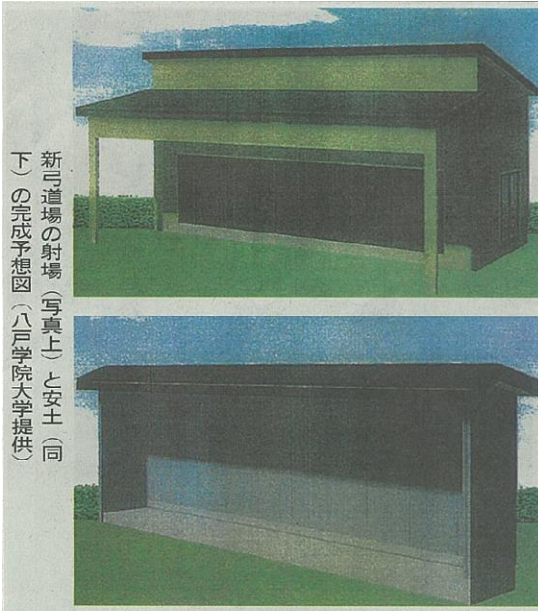


# 八学大弓道場復活へ

## 八戸

八戸学院大学(八戸市、大谷真樹学長)の弓道場が今年、約2年ぶりに復活することになった。旧弓道場は2015年秋、八戸学院短期大学(現八戸学院大学短期大学部)の校舎建設で撤去。同大の弓道部員たちは大学から遠い市弓道場で練習してきた。新弓道場は同市美保野のキャンパス内に建設され、部員たちは「練習場までの移動の手間がなくなり、練習時間が十分確保できる」と7月下旬の完成を楽しみにしている。

### 2年ぶり 7月完成



新弓道場の射場(写真上)と安土(同下)の完成予想図(八戸学院大学提供)

新弓道場は近似的(28坪)で、5人立ちの射場と安土(的を置く建屋)を整備する。隣接地には遠的(60以上の練習場も確保する。総工費は1500万円ほどで、外構工事などは部員や大学職員ができる限り手伝う。同大によると、弓道場がある県内の大学は「1、2カ所程度では」という。

弓道部は1993年創部。20〜30人程度の部員を擁し、東北6県の大学リーグ戦などに参戦してきた。創部当初は美保野地区にあった光星学院高校(現八戸

弓道場復活を心待ちに市の施設で練習に励む部員ら



学院光星高校)の弓道場を高校弓道部と共用していたが、湊高台の同高敷地内に高校弓道場が新設された96年以降は、美保野の弓道場を拠点に練習してきた。弓道場が2015年に撤去され、同大弓道部も部員減で一時は活動休止状態に。しかし16年春、「高校

## 部員心待ち、地域にも貢献

高校生らの受け皿となって地域に貢献したいとの学長の意向で弓道場復活が決まった」と、同大の松山政義学長補佐。法官廣子監督は「市弓道場での練習では市民の皆さんにお世話になった。専用の弓道場を部員は喜んでいる」と話す。

川島千愛美主将(健康医療学部看護学科2年)は「新弓道場ができれば練習時間が増え、課題にじっくり取り組める」。大関優李副主将(同)は「キャンパスで練習できるので、弓道に興味を持つ学生が増えるかも」と部員増加に期待し、高坂大誠さん(同学部人間健康学科1年)は「練習を重ね、チームの勝利に貢献することも自分の腕も磨きたい」と決意を固めた。

同大は新弓道場のこけら落としとして、大学生や高校生、市民の愛好者も対象とした完成記念大会を8月にも開催する方向で検討している。